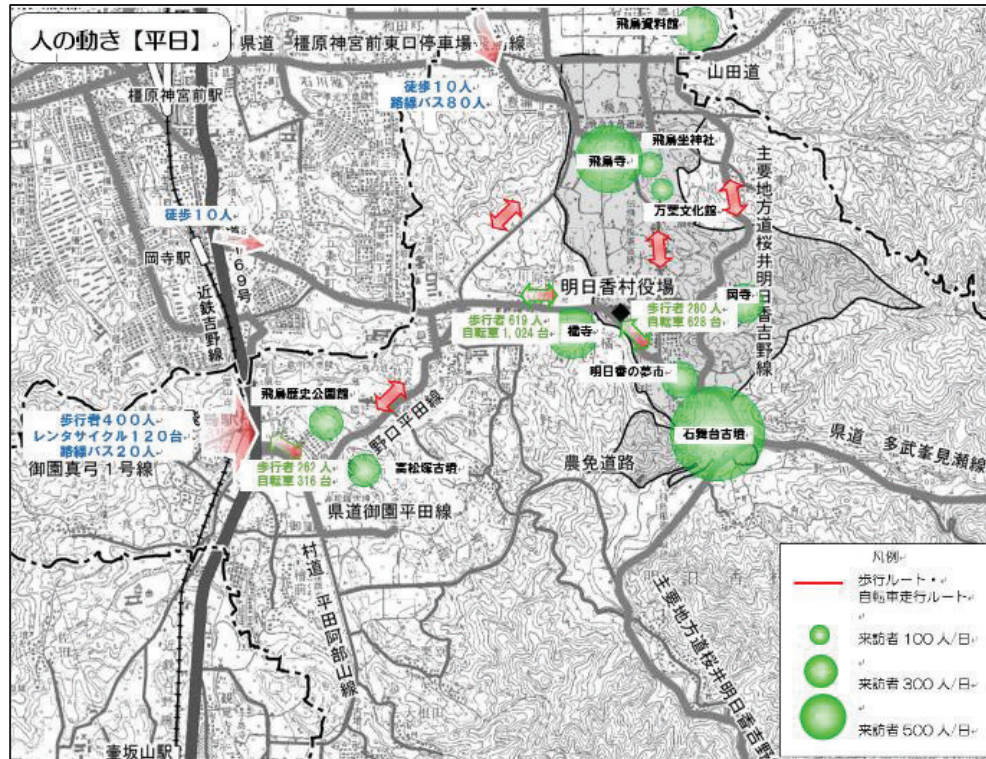


## 2. 明日香村の概要

### ◆観光客の動き

徒歩ならびに自転車による観光客の動きは、飛鳥駅からスタートし、石舞台古墳周辺及び飛鳥寺周辺を目的地としての動きが多くなっている。

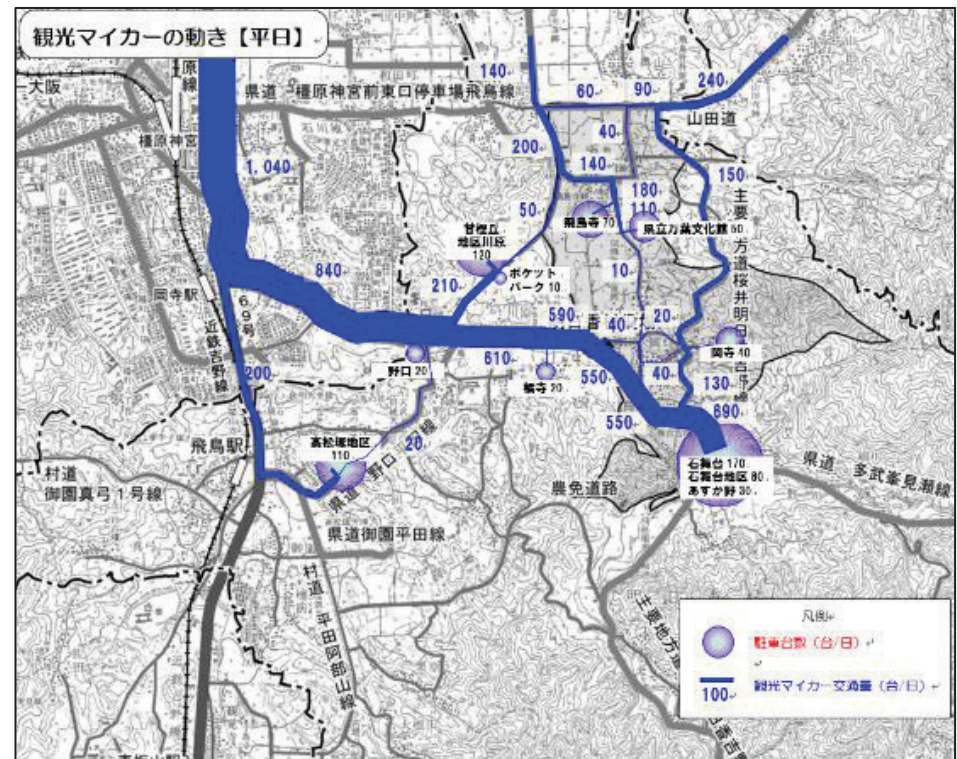


歩行者・自転車の走行ルートと来訪者数

出典：2013年明日香村観光実態調査

### ◆観光マイカーの動き

マイカーによる観光客の動きは、国道169号から県道を経由し、石舞台古墳周辺を目的地とする動きが最も多い。



車の走行ルートと目的地

出典：2013年明日香村観光実態調査

## 2. 明日香村の概要

### (7) 住民意識

#### ア. 明日香村の住みごころ

「明日香村の住みごころ」について聞いたところ、「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせると、全体では、75%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 30～34 歳代で、「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせて、86.9%、次いで、40～44 歳代で 84.7%、60～64 歳代で 83.2%の結果であった。

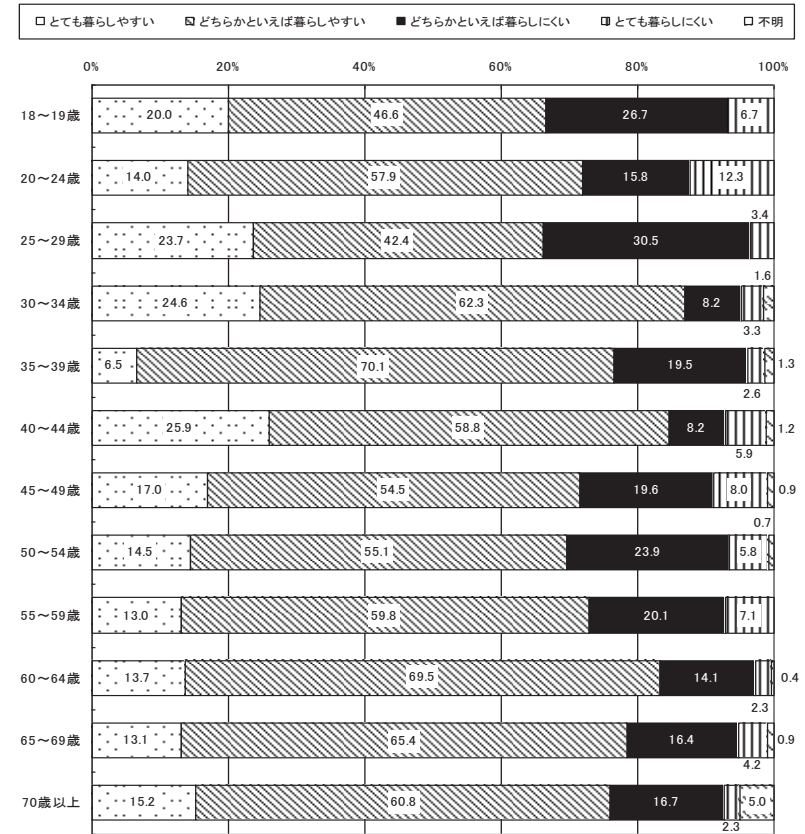
#### イ. 明日香村の誇り

明日香村のどのようなところに誇りを感じるか、を聞いたところ、「わが国で初めて律令国家が形成された時代の政治の中心」が 37.4%で最も多く、次いで「万葉集に謳われた由緒ある風景」が、28.9%の順であった。

#### ウ. 明日香村への居住意向

「明日香村に住み続けたいか」について聞いたところ、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせると、全体では80%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 40～44 歳代と 60～64 歳代で、「住み続けたい」、「どちらかというとも住み続けたい」を合わせて、ともに 86.2%、次いで、30～34 歳代で 82.7%、などすべての年代で定住意向は高い結果であった。



年齢別「住みごころ」に対する意向

出典：平成 25 年明日香村住民アンケート調査

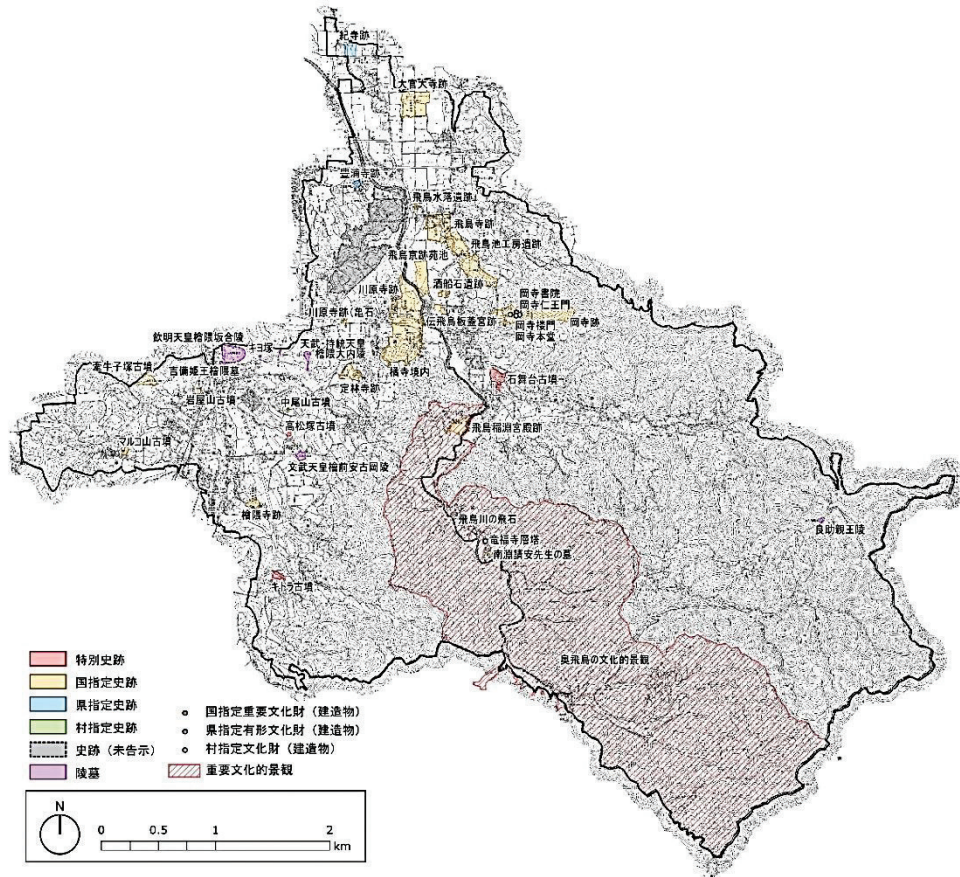
#### エ. 規制について

「規制を感じる」と答えた方に、どういう時に規制を感じるかを聞いたところ、「住宅改修時の規制が最も多く 62.6%、ついで「許認可手続きが面倒」が、48.5%、「建築や改修費用が高い」が 41.4%の結果であった。

## 2. 明日香村の概要

### (8) 地域資源

明日香村の地域資源としては、石舞台古墳など国指定特別史跡や史跡、奥飛鳥の重要文化的景観など古代史を語る数多くの文化財ならびに田園景観を中心とした景観資源があげられる。



明日香村の主な史跡等の分布

出典：明日香村歴史文化基本構想

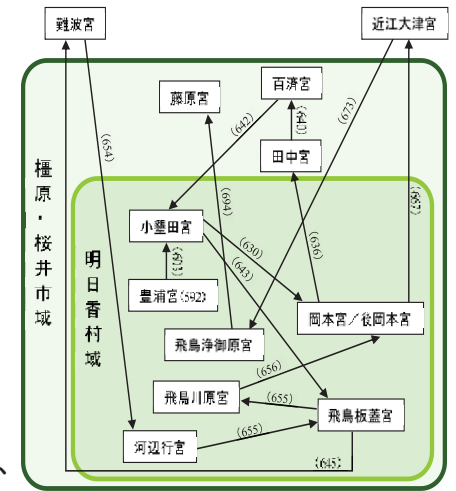
### ◆文化財

#### ● 宮殿と関連施設

推古天皇が豊浦宮で即位したことで、飛鳥時代が幕を明ける。推古天皇は推古 11 年（603）に小墾田宮に新宮殿を建設して遷した。次の舒明天皇は飛鳥寺南方の飛鳥岡本宮に、皇極天皇は、飛鳥板蓋宮へと宮を遷した。この飛鳥板蓋宮は乙巳の変の舞台となり、孝徳・天智朝には一時的に宮殿は飛鳥を離れることもあった。しかし、斉明天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇の飛鳥浄御原宮をはじめ、飛鳥時代の大半を通じて、宮は明日香村を中心とした飛鳥地域において営まれた。

これらの宮域の中には、苑池や各種官衙がある。特に、内郭の北西に隣接して、広大な苑池が広がっており、噴水石造物や中島などがみられた。また島庄遺跡では一辺約 40m の方形池が見られる。

官衙と考えられる遺跡としては、飛鳥寺の北西には漏刻施設である水落遺跡や、噴水石造物をもつ迎賓館の石神遺跡があり、飛鳥寺の西に位置する飛鳥寺西方遺跡には、『日本書紀』において「飛鳥寺西槻」と記される広場との関連が指摘される石敷を施した空間が広がる。また、その北方に隣接してある飛鳥池工房遺跡は、富本銭をはじめ金・銀・銅・鉄・ガラス・玉・瓦など各種製品を作っていた飛鳥時代最大の総合工房である。



宮の変遷



飛鳥宮跡

## 2. 明日香村の概要

### ○ 終末期古墳

飛鳥地域は、特色ある古墳が多く築かれた地域でもある。この地域の群集墳としては飛鳥南東の細川谷古墳群がある。横穴式石室を主体とする総数 200 基の古墳群である。

この中には打上古墳や上5号墳、組合式石棺をもった堂の前塚古墳などが注目される。また、この古墳群の西端にあたる場所には、巨石を用いた一辺 52mの方墳である石舞台古墳や都塚古墳などが位置する。

これらは6世紀後半から7世紀初頭にかけての終末期前半の古墳であるが、7世紀中頃から8世紀初頭にかけての終末期後半の古墳は飛鳥南西地域に集中する。

それは天武持統天皇陵（野口王墓）を北東の隅として、その南西に広がる。天武持統陵のある谷は、欽明天皇陵（梅山古墳）・カナヅカ古墳・鬼の俎雪隠古墳と東西に並び、飛鳥の皇統譜との位置づけもなされている。

梅山古墳は明日香村内では唯一の前方後円墳であるが、東西尾根の南側に築かれており、終末期古墳の立地を色濃く反映している。つまり、大和最後の前方後円墳はまさに終末期古墳と一部重なるのである。

カナヅカ古墳は岩屋山式の横穴式石室をもつと考えられ、一辺 60mの段上にある。鬼の俎雪隠古墳は石英閃緑岩を割り抜いた石槨で、東側に隣接して同2号墳があったとされる。

野口王墓は八角形の墳形をもち、石室内に夾紵棺と骨蔵器があったとされ、現在比定されている天皇陵では、その比定の正しさが唯一指摘されているもの



石舞台古墳

である。

この南方には同じ八角形墳である中尾山古墳がある。中尾山古墳の南の尾根の南斜面には、円墳で凝灰岩切石を組み合わせた横口式石槨をもち、内部に四神・人物像などの壁画の描かれた高松塚古墳がある。さらに南方 1.2 kmには同構造で壁画のあるキトラ古墳が位置している。

一方、高取川の左岸では凝灰岩の割抜き式石槨をもつ八角墳である牽牛子塚古墳があり、夾紵棺や七宝亀甲形座金具や玉類が出土するとともに、古墳南東側に隣接して越塚御門古墳が存在するなど、斉明陵の有力な候補となっている。



高松塚古墳壁画 西壁女子群像

高松塚古墳・キトラ古墳と同構造の石室をもつマルコ山古墳では、壁画は描かれていないが、墳形は多角形墳をしている。マルコ山の西方には結晶片岩を用いた石室を有するカツマヤマ古墳や、東方にはテラノマエ古墳があり、両古墳の石室中央には棺台が備え付けられている。

さらに南方には凝灰岩の切石を家型に組み上げた石室をもち、八角形墳である東明神古墳がある。

## 2. 明日香村の概要

### ○ 飛鳥の石造物

飛鳥の東方丘陵上には謎の石造物と呼ばれる酒船石があり、これを取り巻くように石垣が巡っている。この北側の谷底には亀形石槽の導水施設があり、天皇祭祀の場とする。飛鳥京跡苑池から庭園の噴水施設の石造物群が出土、石神遺跡では迎賓館の噴水施設である須弥山石・石人像が出土している。その他にも猿石など多くの石造物が存在する。これらは斉明朝の一時期に製作されたと推定されているが、その性格については明確でないものも多い。



亀石

### ○ 宗教建造物

明日香村内には、最古の寺とされる飛鳥寺をはじめ、岡寺や川原寺および橘寺などの寺院、飛鳥座神社などの神社の建造物が田園地域のなかで保全されると共に、岡寺の初午会などの伝統的な行事が継承されている。



飛鳥寺



川原寺



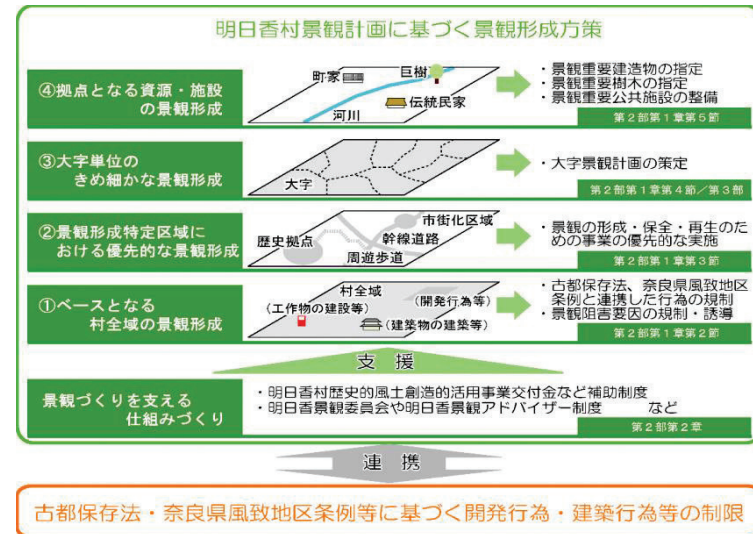
岡寺

### ◆ 景観

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法や風致地区条例、景観条例などにより、国民共有の財産である明日香村の歴史的風土の保存に取り組んできた。このことにより、甘樫丘などの歴史的な視点場からの眺望景観、史跡などの歴史的要素が周辺と調和した景観、農地・集落・丘陵・山地が調和した景観、棚田里山などのふるさと景観が維持されている。



明日香村の景観



明日香村景観形成方策

出典：明日香村景観計画